

**2019 J2** ■順位表 ■暫定：第38節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	柏	75p	+35	65	30	A●	H●
2	山形	67p	+23	53	30	H○	A●
3	横浜FC	67p	+20	60	40	A●	H△
*4	大宮	66p	+18	55	37	A●	H△
5	徳島	64p	+12	55	43	A●	
6	岡山	63p	+4	48	44	H○	A●
7	京都	62p	+12	54	42	H△	A●
8	水戸	61p	+15	50	35	H●	A●
9	甲府	59p	+17	56	39	A●	
10	金沢	56p	+11	53	42	H●	A●
11	新潟	55p	+17	65	48	H●	
12	長崎	53p	-2	53	55	H●	A○
13	東京V	51p	-1	53	54	H●	
14	山口	47p	-10	51	61	A●	H△
15	琉球	43p	-20	53	73	H○	A○
16	愛媛	39p	-13	43	56	A●	H○
17	千葉	39p	-17	44	61	A●	H△
*18	福岡	38p	-19	35	54	A○	H●
19	町田	37p	-20	33	53	H●	A△
20	鹿児島	36p	-29	39	68	H△	A●
21	栃木	30p	-23	29	52	A△	H△
22	岐阜	30p	-30	31	61	---	---

注)\*は消化試合が1足りない

**次回HomeGame**

第41節【ホーム最終戦！】

vs.ヴァンフォーレ甲府

11/16(土) 14:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

**大酒場 ホームラン**

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

**投稿募集 !!**

gidaidohri@gmail.com

today's guest : 徳島ヴォルティス

2018 J2 16勝 8分 18敗 勝ち点56:11位

直近の対決と結果	ここ3試合の公式戦の結果	
2019/03/03 J2 - 2節@鳴門大塚	FC岐阜	徳島ヴォルティス
徳島 1-0 岐阜	2019/10/30 J2 - 23節@白波スタ 鹿児島 1-0 岐阜	2019/10/27 J2 - 38節@鳴門大塚 徳島 2-1 水戸
	2019/10/06 J2 - 38節@町田 町田 0-0 岐阜	2019/10/19 J2 - 37節@NACK 大宮 2-3 徳島
	2019/10/20 J2 - 37節@長良川 岐阜 2-0 愛媛	2019/10/13 J2 - 36節@鳴門大塚 徳島 2-1 岡山

● J2 リーグ 2019 シーズンの最終盤、下位チームとの直接対決3連戦を迎えたFC岐阜。その初戦、10/20(日)第37節・ホーム愛媛戦は、前半から愛媛にボールを支配されて我慢して守る時間が続く。しかし、後半にCKの折り返しを#50 當間建文が押し込んで先制ゴール、そして#22 柳澤亘が獲得したPKを#5川西翔太が決めて追加点。その後も愛媛の攻撃を無失点に抑えて2-0。8試合ぶりの勝利、そしてホームでは5/5(日)第12節琉球戦以来5か月ぶりの勝利を得ることができた。これで21位・栃木と勝ち点1差に縮めたFC岐阜、続く10/27(日)第38節・アウェイ町田戦も、相手にボールを支配される時間が続く展開に。後半にはプラン通り攻撃のギアを入れた岐阜だったが、逆に町田にさらなる攻撃を許す展開となってしまう。しかし、なんとか守りきって0-0のスコアレスドロー。苦しい展開の中で勝ち点1を分け合う結果となった。これで21位・栃木とは勝ち点で並んだFC岐阜。そして、雷雨で延期となっていた第23節・アウェイ鹿児島戦を10/30(日)の中2日で迎えた。20位・鹿児島との直接対決は拮抗した激しい展開、両チームとも惜しい機会を逃し、得点には至らない。しかし、後半アディショナルタイムの最後に、鹿児島に決定機を許してしまい、岐阜は失点、そして試合終了。まさかの結末で0-1の敗戦、勝たなければならない、本当に重要な試合を落としてしまった。この下位3連戦の結果、FC岐阜の順位は最下位・22位のまま。勝ち点で21位・栃木と並んだことは唯一の好材料だが、20位・鹿児島との直接対決を落としたことで勝ち点差が6に開いてしまい、自力でのJ2残留は不可能となった。残りの試合は4。しかも5位・徳島、11位・新潟、9位・甲府、13位・東京Vと、厳しい対戦相手が並ぶ。だけど、まだ終わった訳ではない。残り4試合『も』ある。栃木や鹿児島の試合結果にも影響されるが、まずは我々が残りの4試合、しっかりと戦って結果を出し、勝ち点を積み上げることができれば、まだ道は開けるはずだ。それを選手・スタッフ・サポーターが丸となって信じて、全力で最後まで戦い抜くしかない。さて、今節の対戦相手は、先述したように徳島ヴォルティスだ。昨季は11位に終わり、3年目のスペイン人リカルド・ロドリゲス監督体制で迎える今季は、開幕戦で鹿児島に敗れるなど不安定な戦いをしていたが、シーズンが進むにつれて徐々に調子を上げていった。現在は11戦無敗(8勝3分)で、ついに順位が5位・プレーオフ圏内。今のJ2で最も勢いのあるチームと言っても過言ではないだろう。徳島とのリーグ戦での通算対戦成績は、FC岐阜の6勝5分12敗・21得点35失点と、大きく負け越している。ホーム戦では4勝4分4敗・12得点12失点と完全に互角なのは好材料だが、2010年の勝利(2-1)以来、過去6年間に限れば3分4敗・2得点8失点と苦杯を舐め続けている。昨年のホーム戦・4/15(土)第9節はスコアレスドローに終わった。また、今年のアウェイ対戦である3/3(日)第2節では、後半アディショナルタイムに決勝点を許してしまい、0-1での悔しい敗戦。今シーズンは試合終盤に失点して勝ち点を落とす試合が多いが、その最初が徳島戦だった。しかし今節こそは、最後まで集中を切らさずに勝利しなくてはならない。徳島で警戒すべき選手には、まずは#9河田篤秀を挙げたい。現在8ゴールを挙げる1トップを自由にさせないことが重要だ。ただし、全員での攻撃的サッカーを掲げる徳島は、他にも6ゴールを挙げている選手が4人もいる。中でも#3ヨルディ・バイスはDFながらセットプレーやミドルシュートで6ゴール、要注意だ。また徳島には、岐阜に在籍していた#6シシーニョ(17年)と#47押谷祐樹(09~11年)がいる。#6シシーニョは負傷で戦線離脱しているが、#47押谷はベンチ入りする公算が高い。しかし、負ける訳にはいかない。一方の岐阜は、米田徹ヘッドコーチが、昨年まで(16~18年)は徳島のヘッドコーチだった。参謀が古巣を分析して攻略の糸口を探り、北野監督が采配をふるう。そういったベンチワークにも注目したい。まだ、僕らは終わっていない。だから今節も、選手の気持ちを奮い立たせる拍手と声援を送ろう。時には叱咤激励して、全力で戦う選手を励まそう。最後まで選手を信じて、勝利を信じて、スタジアム全体で選手たちを後押ししよう。今節も「万歳四唱」を。その歓喜の叫びを選手たちと共有し、このスタジアムを震わせよう。(ささたく)

## 【第37節】岐阜 2-0 愛媛

●えーと、いつになったら夏は終わるのでしょうか（苦笑）。10月も終わりだというのに、夏日・快晴の長良川。この天候でのデーゲーム、選手の消耗が勝負の明暗を分けるような気が僕はしていた。

さて、スタメンは……えーと、DFが6人？（驚き）まあ#22柳澤亘は攻撃的SBだから、1列前に出す配置がすぐに思いつく。そうすると、#2阿部正紀を右WBにするのか、あるいは守備面の立て直しにと、5CBなのかな（苦笑）……と思っていたら、まさかの#2阿部ちゃんポランチ！？僕には驚きの北野采配だったのだけど、後から冷静になって考えてみると、対人に強くてCBもSBもできる選手なんだから、守備的MF（クラッシャー）として使うのは、そりゃアリですね。んで、この配置が功を奏したのか、山形戦ではガタガタになってしまっていた（苦笑）守備がしっかり機能する。ただしもちろん、選択した戦術は、愛媛にボールは支配されて（持たせて）、しっかり守備をした上でのカウンター狙いなので、我慢する時間帯が長く続く。しかも、それを（たぶん愛媛がピッチ変更を選択したので）ピッチの向こう側でよく見えないという状況。DAZNのスタッツでは、前半の愛媛のボール支配率は7割近く。シュートも愛媛の9本に対して岐阜は2本しかも枠外。前半はいいけれど、この天候で最後まで守備が保つのか……山口戦での悪夢が脳裏にちらついて、不安なまま後半に。

後半も、序盤から試合の流れは愛媛ペース。その流れが少し岐阜に傾いたきっかけを作ったのは、たぶん試合開始から前線で守備に貢献していた#39馬場賢治が、センターサークル付近でボールを奪ってから放ったロングシュート。惜しくもポストを叩いた後にクリアされてしまったけれど、あのシュートで前方に押し出していた愛媛のGKやDFラインを下げることで、それもあって、岐阜にチャンスが生まれるようになってきた。すると後半65分、CKを競ってこぼれたボールに#50當間建文が足を出して、値千金の移籍後初ゴール！！……と言っても、ピッチの向こう側でよく見えなかった（苦笑）。先制点を奪ったけれど、やはりボールを支配するのは愛媛、同点に追いつこうと攻撃のスイッチが入る。その攻撃をしのいでカウンターで追加点を狙う岐阜。一進一退の攻防が続く中、#5川西翔太のスルーパスに抜け出した#22柳澤がPA内で倒されてPK獲得！これを#5川西が決めて追加点！これもピッチの向こう側でよく見えなかった（苦笑）けれど、#5川西は蹴る瞬間までGKだけを見てるんだねえ……この重圧のかかる場面で技ありPKを冷静に決めるのは、ホントすげえわ（驚嘆）。

そして#22柳澤が痛んでピッチを去ると、まさかの#5川西WB。攻撃に守備にと、獅子奮迅？三面六臂？一騎当千？の活躍ぶりに感嘆。最後は再び愛媛に押し込まれる時間が続いたけれど、我慢して守りきった後に聞いた笛の、何と待ち遠しかったことか。ホームで謳う“アイーダ”の、何と甘美なことか。選手たちとする“万歳四唱”の、何と嬉しいことか……8試合ぶりの勝利、そしてホームでは5か月ぶりの勝利、無失点での勝利は……開幕戦以来ですか？（苦笑）

そして、このJ2残留争いの終盤戦で本当に貴重な勝ち点3。今度は、今回こそは、しっかりと掴み取ることができた。ホントなら、もう今頃は20位だったはずなんだけど（苦笑）、逃した勝ち点を嘆いても返ってくるはずもなく。そして、まだ僕らは何も手にしていない。次からも、勝利を目指して一戦必勝あるのみだ。（ささたく）

●あぁ、また、やってきやがったな、愛媛。何回目だよ、まったく。そう、心の中で呟いたキックオフ前。ええ、エンドの選び方についてです。ふだんなら、というか、ほとんどの場合、前半は相手サポ側のゴール、後半に味方サポ側のゴールに向かって攻める。長良川で言えば、アウェイ・チームが前半は岐阜サポが陣取るビジョン側に向かって攻めるのが通例なん

だけど、あえて、前半を味方サポがいる金華橋側のゴールに攻めていくことが多い愛媛。太陽の位置がさほど影響しない長良川陸上競技場で、何度となく通常とは逆の選択をするのは愛媛だけ。そんな気がしてならないのはボクだけでしょうか？

12年にも及ぶ付き合いの中で、何度となく、意味不明で、キモチワルイ負け方を喫することが多かったのは、コイントス後の陣地選択のせいじゃないか？昨季までは、そんな考えに縛られていたんですがね。ところが、結果はご承知の通り。2-0の完封勝ち。アウェイでのスコアをそっくりそのままお返しすることが出来ました。口火を切ってくれたタケフミに感謝します。そして、イラつくくらいにゆっくりと、ギリギリまで溜めてから決めてくれた川西。愛媛のGKははらわたが煮えくり返っていたんじゃないかしら？

とにもかくにも、久しぶりの長良川でのバンザイ四唱と勝利の賛歌。黄金週間の琉球戦以来5か月ぶり。クリーン・シート、完封での勝利となると開幕戦以来。そもそも、勝利自体が8月のアウェイ琉球戦以来だし、オマケに前節の山口戦でお預けを食っているから余計にボルテージは上がってしまう。とはいえ、順位は変わらず最下位のまま。まだ、何にも手にしてはいない。兎にも角にも勝ち続けるしかない。次節の町田戦も全力で応援してきます！（ぐん）

●冒頭は見慣れた感じのやられ方で、これは相当のラックがないと勝ち点は厳しいなあ……と思っていたのに、終わってみれば開幕の山形戦以来のクリーンシート勝ち。サッカーってわからない。

優れた球出しが出来る宮本の不在を川西が埋め、前線ではババケンが運動量豊富に相手を追いかけまわしてピンチの芽を摘む。対戦相手の愛媛もなんだかピッチが上がらなくて、これは「抑えて後半勝負」なのか「コンディションが上がらない」のか、どっちだろう？と思ってたら、後半15分過ぎても変わらず。これは後者だ。後者となれば、岐阜に勝ち目あり。CKからトーマが押し込んで先制。そして川西のPK。助走を始めてから、おそらく川西は1度もボールを見ていない。ただ、GKの眼だけを見据えて助走し、蹴る。これをやられると、GKはキッカーの動きを読むことが出来なくなって、どっちにも飛べなくなるんだそうな。実に技術の高いPKを見せてもらった。

かくして、FC岐阜J2残留の希望が、首の皮半枚から首の皮1枚になった。いや、実際にその程度だと思えます。まず、厳しい壁のうち1枚を乗り越えたことはポジティブに捉えよう。だからといって、この先に待っている厳しい壁がすべて乗り越えられると確信できるほど、ポジティブな現状ではない。それはまた別の話だ。（吉田鎊造）

## 【第38節】町田 0-0 岐阜

●愛媛戦に勝利したことで、今節の試合結果次第では一気に20位・J2残留圏に浮上できる可能性が出てきた岐阜。そのため、このアウェイ・町田には多くの岐阜サポーターが駆けつけた。オレンターノツアーも増便され、全部で……400人以上は来ていたのかな？何としても勝たなければならない、この一戦。スタメンは、勝った試合の次ということで前の試合と同じで試合開始。そして前節と同様、町田にボールを支配されるのは、まあ個人的には想定内。前半は我慢して無失点で耐えて、後半に攻撃のカードを切って得点して勝つ、というシナリオなのだろう。そして、この試合でも岐阜の選手たちは、町田にボールを保持されながらも、しっかりとブロックを形成して全員で守備をして、町田にゴールを許さない。前半は、お互いにこれと言った決定的なチャンスがないまま終了。さて、勝負の後半…想定通りというか、勝つためには当然なんです（笑）、#36タビナスと#33ミシャエルを相次いで投入。明らかに、左サイドを2人で突破させて攻略するという意図が分かる采配だ。ところが、横浜FC戦で同点

ゴールを産んだ、この左サイドの組み合わせが今回は残念ながら機能しない。2人とも今日は推進力不足なのか、それとも町田のDF陣に上手く対応できてしまっているのか……。そうすると、攻撃にギアを入れた岐阜は守備面でのバランスが崩れてしまいオープンな展開になり、徐々に町田の攻撃に上回られるようになっていく。まあ、町田の選手たちの激しいチャージで岐阜の選手たちがかなり傷んでいたというのも理由かなと思います……。(毒)。決定的、とまではいかないけれど、前半に比べるとかなり肝を冷やすような場面が多くなっていく。それでも、最後の場面では身体を張ってゴールを許さない岐阜の選手たち。町田の攻撃陣の精度に助けられてた感もありますが……。今季の町田が下位に低迷している理由なのでしょう。後で知っただけで、町田も3月以来、ホームで勝っていないのだとか……。

一方、岐阜の後半の攻撃は、CKでの惜しい形はあったけれど、それ以外でシュート撃ったのは、交替直後のカウンターでの#33 ミシャエルと、試合終了間際の#36 タビナスと#17 藤谷匠ぐらい？しかも、どれも枠外……。前線でボールがうまく収まらなかったのが大きな理由かなとも思う。この点は早急に修正して欲しいところです。

結局、スコアレスドロー。勝ちたかったけれど、勝てなかった。でも一方で、このような試合展開を我慢して勝ち点1を拾えた。栃木とは勝ち点で並び、鹿児島とも勝ち点差3。次節の鹿児島戦の重要度がさらに増した。正真正銘の一番。次こそ、勝つしかない。(ささたく)

●それにしても、試合前から全く負ける気がしなかった。それほどまでにアドレナリン？が出ていたのは、よっぽど前節の勝利、5か月ぶりの長良川での勝ち点3が効いていたんだろう。それはよかったんだが……。あえて、厳しい言い方をすれば、勝てる気もしなかった。何しろ、シュートが撃てない。撃っても枠に飛ばない。せっかく、前田神がいるのにクロスが上がらない。ゴール前で類稀な嗅覚、ボディバランスを発揮してくれるエースを、相手のセットプレーの防御役だけで終始させるのは余りにももったいなさすぎるんじゃないか？チャンスの芽はあるにはあった。川西が持ち上がったりする時は期待感が湧くのだが、決定機までには至らない。全力を尽くしてくれたのはわかるが、相手がどこだろうと勝ち点3が要求される試合で勝ち点1では物足りない。しかし、試合内容から言ったら、それはゼイタクな物言いか。とにかく、勝ち点は1点でも貴重。今節の結果で、ようやく勝ち点だけは21位の栃木に並ぶことが出来た。次節は、いよいよ裏天山、裏関ヶ原。この鹿児島戦にはどうしても勝たなければならない。「決して負けられない戦い」どころの騒ぎではない。何が何でも置き忘れてきた勝ち点3を取りに行く。その後押しをするために、鴨池で精一杯の応援をさせていただきます！(ぐん、)

## 【第23節：延期分】 鹿児島 1-0 岐阜

●オレ達が共にいる。心に刻んでいたはずだった。なのに、ゴールを決められた瞬間、声が止まってしまった。情けないサポートでゴメンナサイ。そして、そんな中でもチャントを歌い続けた仲間から敬意を表します。スゲーよ、みんな。そのおかげか、選手が挨拶に来た時、自然とカラダが動いて最前列に。精一杯の檄を飛ばすことが出来たと思う。自らのていたらくを棚に上げて……。だが。

それでも、届いたと信じた。まだ、何も決まっていはいない。次からは最後までやる、やり切るよ！挨拶を済ませた選手達に、あのチャントを切り出したウチのコールは素晴らしい。即座に応えた仲間たちを誇りたい！やってやろうぜ、大逆転！オレ達が共にいる。どんな時もオマエと。(ぐん、)

●雷雨で延期となっていた7/20(土)の鹿児島戦。それが、こんなJ2残留争いの最終盤での直接対決となった。平日の

アウェイ、しかも遠く離れた地でのナイターだから当日には帰れないにも関わらず、勝たなければならぬこの一番に、50名を超えるサポーターが駆けつけた。僕もその一人だ。正直、気持ちの整理が今もまだできていない。鹿児島にも惜しいシュートはあったけれど、岐阜の方がその数が多かったはずだ。しかし、その度にポストやバーを叩いたり、相手GKの好セーブに阻まれた。そして、最後の最後、あの場面でボールが鹿児島FWに渡り、ほぼシュートコースが無いところ、あそこしか無いという位置に無理矢理に撃ったシュートが入る……。なんとという結末。そして僕らは、今季は何度、こんな悔しい気持ちで結果を受け入れなくてはならないのだろう。『僕らは1試合多く残っている』、そのアドバンテージは精神的にも僕らを支えていた。その1試合が無くなり、結果も出なかった今、僕らは本当に正念場に立たされている。だけど、『まだ終わっていない』。僕は試合終了後、うなだれて帰ってきた選手たちに、そうやって檄を飛ばした。『まだ4試合ある。4つ勝てばいい。勝つしかない』とも。そういえば、2016年の北九州戦で敗戦して最下位になった時も、僕はそうやって選手たちに叫んだんだ。あの時も『奇跡の残留』とか呼ばれたんだ。だけど『奇跡』は待ってて起きるものじゃなく、起こすものだ。だから僕は、最後まであきらめない。(ささたく)

## 11/1 時点のJ3順位表。

1	北九州	55p +18	42	24	残り6	★J2ライセンス
2	藤枝	51p +11	37	26	残り6	
-----						
3	群馬	50p +21	51	30	残り6	★J2ライセンス
4	熊本	50p +7	39	32	残り6	★J2ライセンス
5	富山	46p +18	44	26	残り6	★J2ライセンス
6	鳥取	45p -5	42	47	残り6	★J2ライセンス

今季の藤枝の最終順位が2位以内の場合、J2のJ3降格枠が1になります(J2の21位は残留)。

『岐大通』ではFC岐阜のJ2残留が決まるまで、J3情報を掲載していきます。(編集人：吉田铸造)

## 毎年恒例、『岐大通』 ホーム最終節特集の原稿募集！

●長いシーズンも終わりが近づいています。そこで、『岐大通』恒例の「ベストゲーム」「ベストゴール」「MVP」、そして「今季の、そして来季のFC岐阜へ」原稿を募集します。表面に記載のメールアドレスへご投稿ください。なお、ご投稿の際にはペンネームを記載してくださいませよう、お願いいたします。(編集人：吉田铸造)

